



くらしのサポートセンターえきまえ スタッフ

林 理栄

HAYASHI RIE

1971年 妙高市出身  
2020年～「くらしのサポートセンターえきまえ」  
スタッフとして勤務

厚労省が推進する生活支援体制整備事業として始まった「くらしのサポートセンターえきまえ」は、高齢者の居場所作りと介護予防を目的としたサロンを開設。柏崎市内22地区がそれぞれ運営するくらしのサポートセンターの基幹的役割も担う。

くらしのサポートセンターは、概ね65歳以上の人たちが、それぞれ居住する地区の運営に参加するのに対し「くらしのサポートセンターえきまえ」は登録制により市内全域からの利用が可能。「えきまえ」のテーマ型サロンには介護予防と居場所作りを目的とした、ヨガや体操、筋トレ&ストレッチ、ミュージック・ケア、アロマ講座、スマホ講座のほか、手芸・工作・編み物などを持ち込んで趣味を楽しむ「おらん家」や将棋やマーじゃんを楽しむ「男の茶の間」など、多彩なテーマが魅力になっている。

サロンの運営や居場所作りを担当するスタッフの、林 理栄さんは小学生の頃に妙高市から家族で柏崎市へ移住。東京の専門学校で調理師免許を取得し地元柏崎市へ戻った。

その後、東日本大震災の発生で福島県

から柏崎市に避難してきた人たちの交流施設「あまやどり」で、林さんは地元スタッフとして被災した人たちの居場所作りや支援物資の管理等を行った。訪問活動では、スタッフと共に被災者の元を1軒ずつ訪ねてまわり、「聞くのもつらい、聞いても何もできない」というジレンマを抱えながら「ただただ、困りごとを聞く」という難しい仕事を経験した。

中越沖地震を契機に開設された「えきまえサロン」から、2016(平成28)年にはサロンを拠点として、高齢者等の困りごとを必要なサービスに繋ぐ生活支援コーディネーターを配置する「くらしのサポートセンターえきまえ」が立ち上がった。林さんは高齢者の居場所作り、介護予防を目的とする多様な集いの場を提供するための基礎固めを行った。

「くらしのサポートセンターえきまえ」のサロンは人が集まる人間交差点。参加者にさりげなく声を掛ける林さんの明るい笑い声や包容力のある人柄に安心感を覚える人も多いという。心細いから来た、という人も帰る頃には笑顔になり、「私も楽しいし元気をもらえる。それが有難くて励みになっています」と話す。今後は、共生社会としての居場所作りを視野に入れ、大学や企業との連携なども図っていきたいと前を向いた。



#### お問い合わせ

◆ くらしのサポートセンターえきまえ

柏崎市駅前2-1-67

☎ 0257-41-6583

開所時間：月～金(祝日除く) 9:30～15:30

特定非営利活動法人

◆ 地域活動サポートセンター柏崎

柏崎市東本町1-16-12 2F

☎ 0257-47-7299(代)

<https://www.tsckashiwazaki.com>

